



2024/10/16

GFSIのご紹介

GFSI日本ローカルグループ事務局
CGFジャパン 大久保力

ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム（CGF）

- 2009年に、「CIES -The Food Business Forum」（国際チェーンストア協会）、「Global Commerce Initiative」（GCI：標準化推進団体）、「Global CEO Forum」という3つの組織が合併して設立されました。
- 世界中の消費財のリテラーとメーカーを結集する唯一の国際的な消費財業界団体で、世界の消費財企業とサービスプロバイダーを中心に、約400社（70カ国以上）が加盟しています。
- CGF会員企業の総売上高は600兆円以上、直接雇用者は約1,000万人です。
- 非競争分野における4つのピラー（社会的・環境的サステナビリティ、食品安全、ヘルス & ウェルネス、E2E バリューチェーン）の下に9つの行動連合、1,500人を超える専門家と30以上のグローバルと地域のワーキンググループと専門プロジェクトで組織構成し、業界共通の課題に取り組んでいます。
- 59名のCEOからなる理事会が運営しており、日本からも3社※が理事メンバーとなっています。
※味の素、イオン、キリン
- 日本からは、小売企業、食品メーカー、消費財メーカーを中心に62社が加盟しています。

CGFの戦略的組織と活動

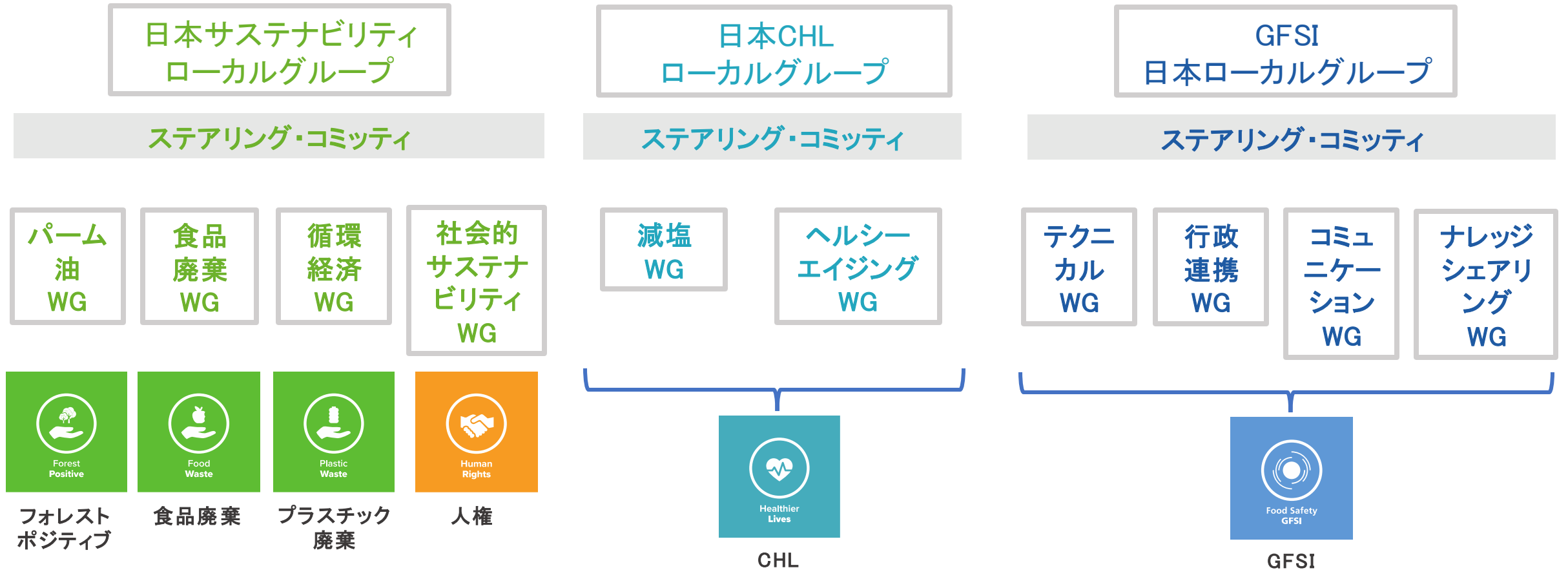


我々CGFでは、9つの**行動連合**を編成し、非競争分野における戦略的課題に取り組んでいます。



SSCI: Sustainable Supply Chain Initiative, CHL: Collaboration for Healthier Lives, GFSI: Global Food Safety Initiative

CGF日本の活動



GFSIの設立の経緯



1990年代、世界中でBSE、ダイオキシン、リステリア菌による汚染など、深刻な食品事故が相次ぎ、リコールが多発しました。また、世界中では約400もの食品安全に関する認証規格が乱立し、食品事業者、特に製造現場では度重なる監査で時間・コストの負担が増え、疲弊していました。

原材料の調達や食品の流通がグローバル化する中、世界の経営者たちは安全な食品を消費者に確実に提供するため、これらの問題を連携して解決することに合意し、2000年5月にGFSI(Global Food Safety Initiative)が設立されました。

1990年代

食品安全を脅かす
事故、リコールの
多発

認証規格乱立による
監査の重複、現場の
疲弊

連携したアクションの必要性を経営者達が合意

2000年

CIES※の1活動としてGFSI発足

※ CIES - The Food Business Forum (国際チェーンストア協会)
“The Consumer Goods Forum” (ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム)の前身の組織

○GFSIのビジョン

Safe food for people everywhere

すべての人々に安全な食品を提供する

○ミッション

世界中の消費者へ安全な食品を確実に届けるために、**食品安全マネジメントシステムの継続的改善**を行う。

○戦略

- ・食品安全認証プログラムの規格を**調和**させ向上させる。
- ・グローバルな食品サプライチェーン全体で**食品安全能力を向上**させる。
- ・食品安全規制当局・政府間組織と食品産業との**官民連携**を進める。

第三者認証の仕組みとGFSIの役割

【認証プログラムオーナー(CPO)】

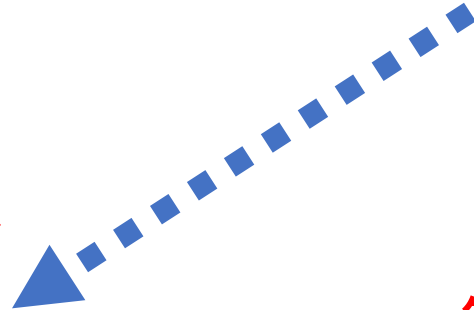
CPO: Certification Program Owner



JFSM
(食品安全マネジメント協会)
FSSC財団
SQFI
JGF (日本GAP協会)
GLOBALG.A.P.



GFSIベンチマーク要求事項



食品安全マネジメントシステム
の構築・運用

食品安全認証プログラム
の活用



【食品事業者(FBO)】

FBO: Food Business Operator

審査・登録・管理



第三者認証

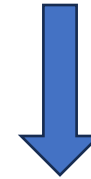
利害関係のない第三者による
公平・公正な評価



【認証機関(CB)】

CB: Certification Body

契約



認定

公平・公正な「認証」を行う
力があるかどうかを確認



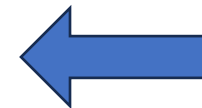
【認定機関(AB)】

AB: Accreditation Body

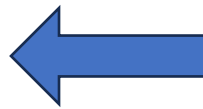
JAB
(日本適合性認定
協会)



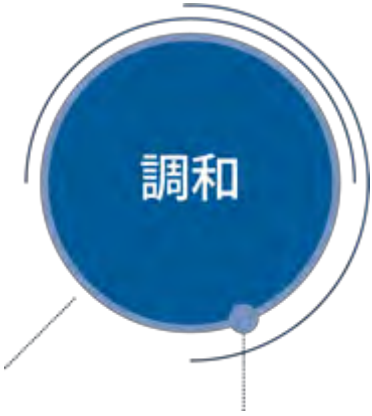
認定



審査・認証
維持審査



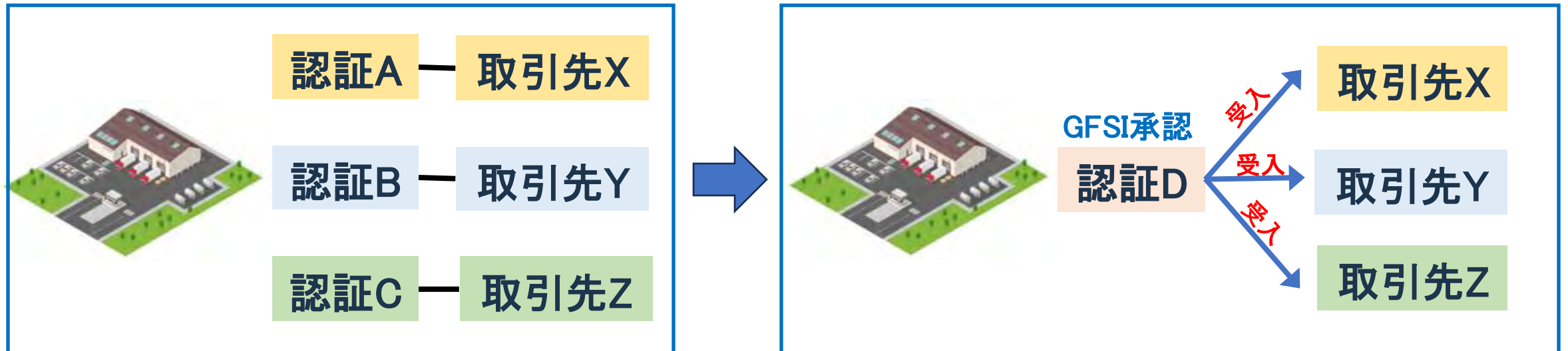
GFSIの戦略



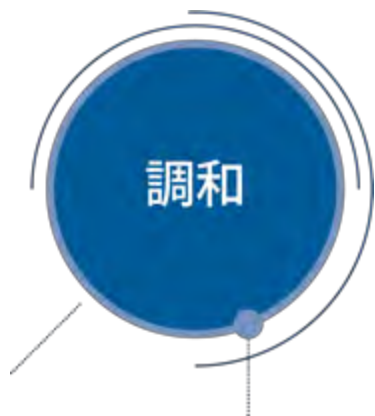
Once Certified, recognized Everywhere

いったん認証されれば、どこでも受け入れられる

”GFSI ベンチマーク要求事項”を満たす認証プログラムを公表し、それらをどれか一つ取得すれば、世界の全てのステークホルダーに認められる状態を目指す。



GFSIの戦略



Once Certified, recognized Everywhere

いったん認証されれば、どこでも受け入れられる

【GFSIが承認した認証プログラムを有するオーナー一覧】

ASIAGAP

BRGS

CANADAGAP

efi

FSSC 22000

Freshcare

Global Seafood Alliance

一時停止中

GLOBALG.A.P.

GRMS

GRMA

IFS
International
Featured Standards

jfsm

primusGFS

SQF INSTITUTE

GFSIに対する3つの誤解

誤解1 GFSIが食品事業者に対して認証を行なっている。 ❌

「GFSI認証」という言葉を見聞きすることがあるように、GFSIが認証を行なっているという誤解が存在します。認証プログラムを保有しているのは認証プログラムオーナー（CPO）、認証を行うのは認証機関（CB）です。GFSIは各認証プログラムのベンチマークは行いますが、**自ら認証プログラムを保有したり、認証を提供することは行っていません。**

誤解2 GFSIは認証プログラムオーナー（CPO）を承認している。 ❌

GFSIは、CPOから申請のあった**個別の認証プログラム**をGFSIベンチマーク要求事項に基づいて評価し、そのプログラムに対して承認を与えています。CPOを承認することで、そのCPOが保有する認証プログラムがGFSI承認となるのではありません。例) JFS-C：GFSI承認、JFS-B：GFSI承認なし

誤解3 GFSIが承認した認証プログラムの認証を取得すれば二者監査をやらなくて良い。

❌

GFSIが承認した認証プログラム（第三者認証）は**食品安全**のための要求事項を提供しています。一方、二者監査では個別製品の品質を含む**顧客／ブランドの差別化要因**なども監査対象に含まれます。よって、第三者認証の取得は二者監査の食品安全部分の効率化にはつながりますが、二者監査全体を省略できることにはなりません。GFSIでは、第三者監査と二者監査はお互いに補完的役割を果たすものであるという見解書を発信しています。

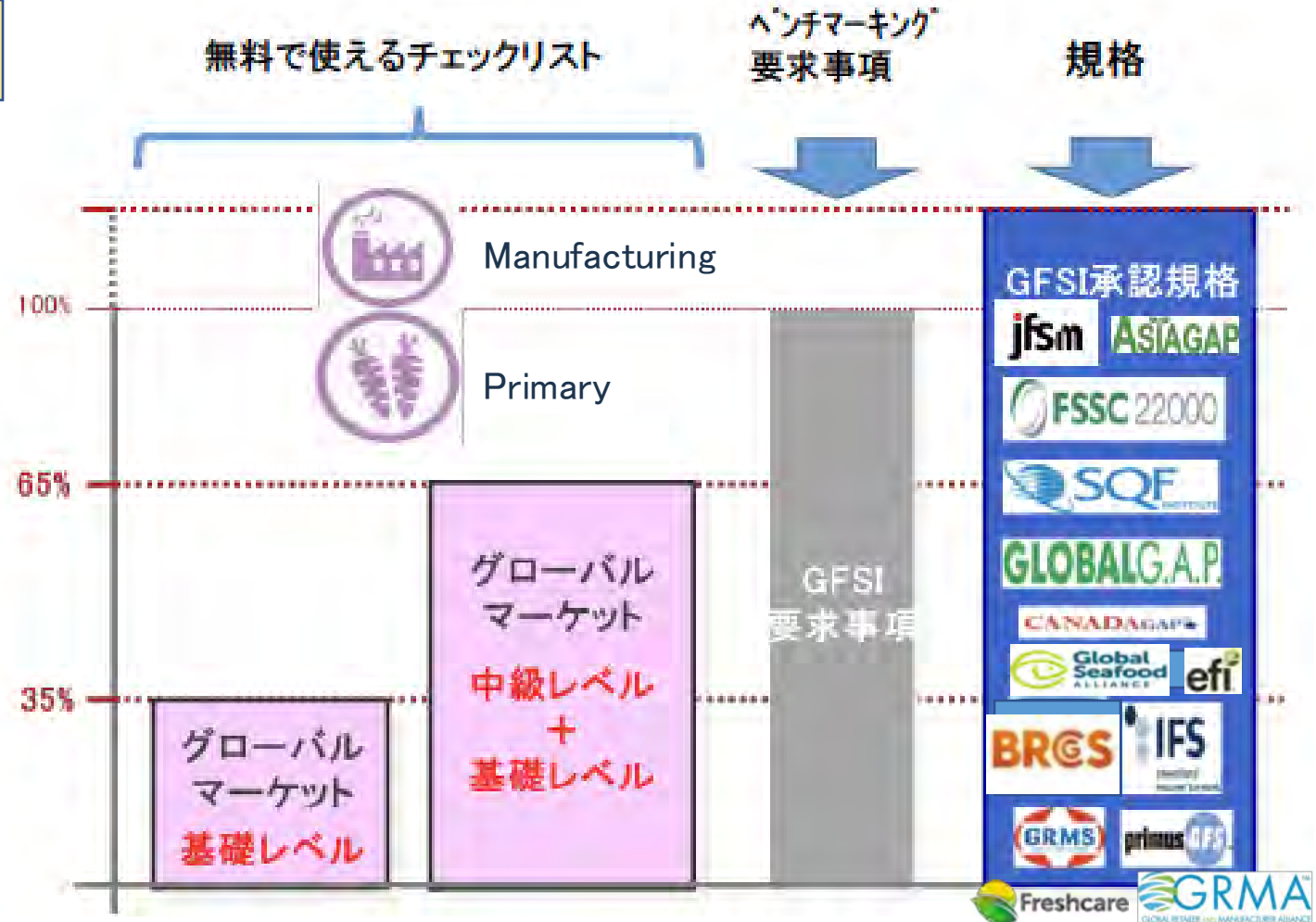
GFSIの戦略



グローバルマーケットプログラム (GMaP)

2008年初版
2023年11月改訂版発行

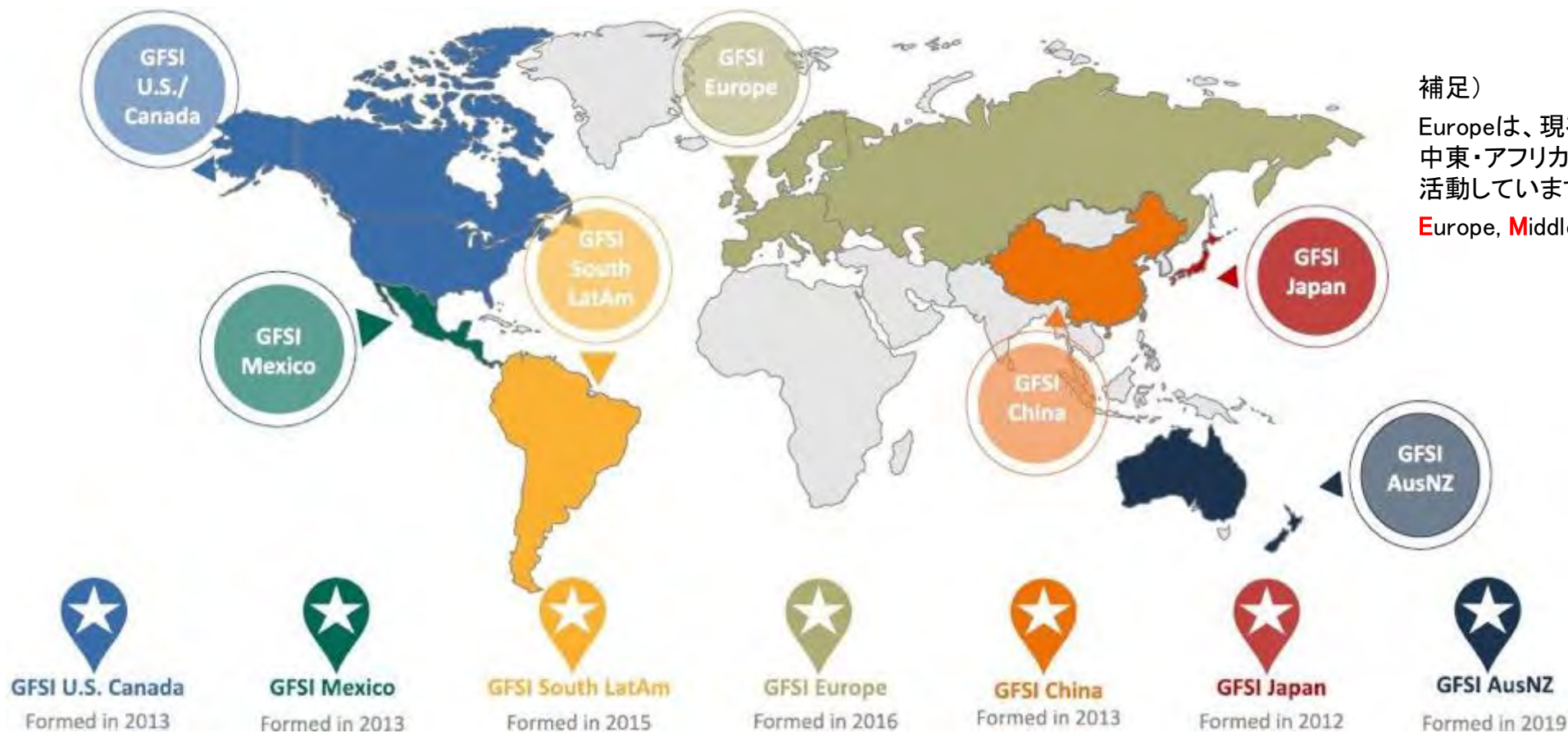
- ・段階的にGFSI承認食品安全規格の取得を目指すプログラム
- ・一次生産と小規模食品製造者あるいはこれから発展する企業が対象
- ・食品安全マネジメントシステム構築のための自主的なツール
- ・より安全な食品の製造と市場獲得に向けたロードマップ
- ・小売業者やメーカーによる取引先の監査でも活用されている事例あり



GFSI ローカルグループ



グローバル戦略を地域レベルで実現するために、GFSIステアリングコミティはGFSIローカル・グループを通じて地域ネットワークと連携しています。

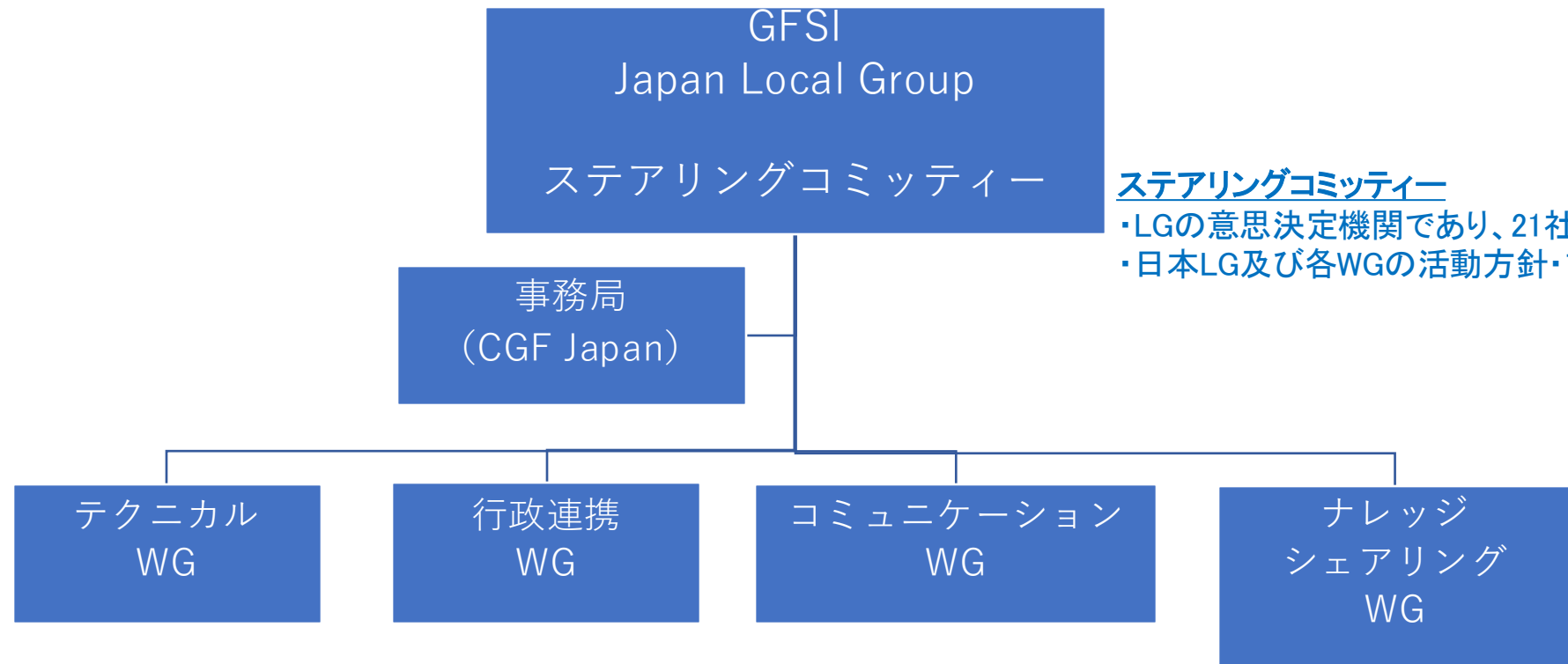


補足)

Europeは、現在、EMEA(欧州・中東・アフリカ)に範囲を広げて活動しています。

Europe, Middle East, Africa

GFSI日本ローカルグループ(LG)



ステアリングコミッティー

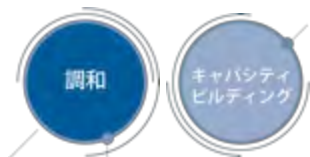
- ・LGの意思決定機関であり、21社(2024. 10月現在)で構成
- ・日本LG及び各WGの活動方針・計画・実績の承認を行う

ワーキンググループ (WG)

- ・年間計画に基づき、WG毎に1回/月～2ヶ月程度の活動・打合せを実施。

13社

- ・GMaPの普及
- ・関連規格の研究
- ・他のWGへの技術的支援



11社

- ・関連省庁、地方行政との連携強化
- ・GFSI承認規格の普及による輸出支援



4社

- ・国内ステークホルダーへのGFSIの啓発
- ・GFSIホームページへの活動状況の掲載



11社

- ・セミナーの開催
- ・Japan Food Safety Dayの企画、実行



GFSIの取り組み課題:グローバル

① 食品安全マネジメントシステムの継続的改善

- ・GFSIベンチマーク要求事項の定期的改訂 → 後述

② 食品安全の能力構築

- ・グローバル・マーケット・プログラム (GMaP) の展開
- ・2023年 USAID (アメリカ合衆国国際開発庁) との覚書締結 → アフリカにおける能力構築での連携

③ 認証プラットフォームの開発


- ・プロジェクト「ORRC」が進行中。 ‘Online Recognised Repository[※] of Certificates’ の略。 ※Repository: 収納場所
- ・GFSI承認規格の取得全サイトの認証情報を収納し、関係者が無料で確認できるようにする。

④ 監査員のトレーニングと専門能力開発(ATPD[※]) ※Auditor Training and Professional Development

- ・専門能力開発のフレームワーク(案)の作成がほぼ完了。
- ・9月にパブリック・コンサルテーション実施(約6週間) → その後、新ワーキンググループを招集し次の作業へ

GFSIカンファレンス（GFSIの年次世界大会）

2025年4月1～3日 アイルランド ダブリンで開催



The Convention Centre Dublin

Plenaries, Breakouts & Special Sessions take place at The Convention Centre Dublin, Ireland.

Spencer Dock, N Wall Quay, North Wall
Dublin 1, D01 T1W6, Ireland
Telephone: Phone: +353 1 856 0000

2024年 GFSI 日本ローカルグループ全体課題

① 各ステークホルダーの食品安全、GFSIに対する理解促進

- ・GFSIの役割や活動内容を分かりやすく整理し、Webサイトや勉強会等での情報発信を継続
- ・食品安全部門の転入者向けに、食品安全の基礎、第三者認証、GFSIの概要・役割に関する導入教育
- ・製造現場とのやりとりに必要な、食品安全マネジメントプログラムの各要求事項の目的に対する理解促進

② 取引先と連携した食品安全レベルの継続的改善

- ・取引先とのコミュニケーション(二者監査)の目的とありたい姿を整理
- ・ありたい姿の実現に必要な具体的な行動を集めて、共有、実践

③ 認証機関の監査員不足への対応

- ・関係者からのヒアリングによる現状の把握、理解
- ・関係機関への問題提起

2024年 GFSI 日本ローカルグループ全体課題



② 取引先と連携した食品安全レベルの継続的改善

- ・取引先とのコミュニケーション(二者監査)の目的とありたい姿を整理
- ・ありたい姿の実現に必要な具体的な行動を集めて、共有、実践

2023年の課題として「二者監査の**効率化**」に取り組もうとしたが、議論する中でこのような意見が……

「コロナ禍を経てバイヤーとサプライヤー間のコミュニケーションがうまくできなくなっているのでは？」

「監査が取り調べのようになっていて、事実や本音が掴みきれていないのでは？」

「製造委託先に一緒に取り組んでもらえるよう、関係構築に一生懸命取り組んでいる。」



効率化よりも先に、二者監査のもっと基本的な部分に取り組むべきなのは！

二者監査の目的や、その実現のために必要なことについて、これからの講演とパネルディスカッションを聴きながら、ぜひ皆さん各自で考えてみてください。